中国・四国地方

名前

問1　瀬戸内海の沿岸部に位置する工業地域において、石油化学コンビナートや製鉄所などの大規模な工場が建設され、重化学工業が発達した主な理由として最も適切なものはどれですか。（2016年 岐阜県公立入試 類似）

1. 内陸部に広大な平坦地があり、安価で豊富な工業用水を確保しやすいため
2. 大消費地である東京や大阪の中間に位置し、高速道路による陸上輸送が容易なため
3. かつて周辺に大規模な炭鉱があり、エネルギー源を現地で調達できたため
4. 原料の輸入や製品の搬出に便利な海上交通の利便性を活かすため

問2　香川県は瀬戸内式の気候に属し、全国的に見ても降水量が少ないため、古くから干ばつによる被害に悩まされてきました。この問題を解決するため、徳島県を流れる吉野川から、山を貫くトンネルなどの導水路を通じて水を引く大規模な利水施設が建設されました。この施設の名称として正しいものを選択してください。（2023年 北海道公立入試 類似）

1. 香川用水
2. 愛知用水
3. 讃岐用水
4. 吉野川疎水

問3　中国・四国地方にある県のうち、県域の北側が広く日本海に面しており、瀬戸内海には面していない県はどこですか。（2026年 大阪府公立入試 類似）

1. 広島県
2. 兵庫県
3. 香川県
4. 鳥取県

問4　本州四国連絡橋の3つのルートのうち、世界最長の吊り橋である明石海峡大橋を含む「神戸・淡路・鳴門ルート」における、2000年から2016年にかけての交通量と旅客輸送の変化について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2019年 兵庫県公立入試 類似）

1. 通行台数は増加しているものの、環境保護の観点から大型の乗合バスの通行が制限されたため、旅客輸送の主体は鉄道に移行した。
2. 年間の通行台数は約427万台減少しており、それに伴って本州と四国を結ぶ移動手段は乗合バスからフェリーへと回帰している。
3. 年間の通行台数が約427万台増加して1300万台を超え、徳島県と兵庫県の間を結ぶ乗合バスの旅客輸送人員も増加傾向にある。
4. 通行台数は1300万台前後で横ばいであるが、景気の影響によって貨物輸送量と乗合バスの旅客数はともに大幅に減少している。

問5　日本の諸地域のうち、香川県の高松市などに代表される瀬戸内地域の気候において、年間を通じて降水量が少なくなる主な要因は何ですか。（2016年 群馬県公立入試 類似）

1. 標高の高い中国山地と四国山地に挟まれた盆地状の地形で、常に上昇気流が発生して雲が消滅するため
2. 北側の中国山地から吹き下ろす冷たい風が、冬の間に大量の雪を降らせて空気中の水分を奪うため
3. 南側の四国山地が台風の接近を完全に防ぎ、夏から秋にかけての降水がほとんど見られないため
4. 北側の中国山地と南側の四国山地が、湿った季節風を遮る壁のような役割を果たしているため

問6　ある統計資料において、果実産出額が497億円に達し、近隣の県や三重県などの他県と比較しても非常に高い数値を示している県があります。この県では、瀬戸内地方の温暖な気候を活かして、みかんなどの柑橘類の生産が盛んに行われています。この特徴に合致する県はどこですか。（2019年 三重県公立入試 類似）

1. 青森県
2. 宮崎県
3. 和歌山県
4. 愛媛県

問7　中国地方の日本海側に位置する鳥取県における産業や農業の特徴として、最も適切なものはどれですか。（2025年 徳島県公立入試 類似）

1. 製造品出荷額などの工業規模は比較的小さく、農業産出額において果実生産の割合が高い。
2. 降水量が極めて少なく、農業産出額の大部分を綿花栽培が占めている。
3. 温暖な気候と豊かな降水量を生かして茶の栽培が全国1位となっている。
4. 工業の製造品出荷額が全国上位であり、農業では米の生産割合が80%を超えている。

問8　多くの都道府県でなすの出荷量が増加する夏から秋にかけては、市場におけるなすの平均価格が下落する傾向にあります。これに対し、高知県は冬から春にかけての出荷量を大幅に増やす戦略をとっていますが、その目的として最も適切な説明はどれですか。（2025年 三重県公立入試 類似）

1. 夏場に発生しやすい台風の被害を避けるため、収穫時期を半年遅らせるため
2. 冬から春にかけての冷涼な気候を好む特定の品種を、大規模に栽培するため
3. 他の産地の出荷が少なく市場価格が高騰する時期を狙い、高い利益を得るため
4. 近隣の消費地への輸送コストを削減し、安価で新鮮な野菜を大量に供給するため

問9　地形図上に引かれた二地点間の高低差を垂直方向の断面で示したものを断面図といいます。標高332.4mの高尾山があるA点から、等高線のほとんどない境港港付近のB点に向かって直線を引いたとき、その直線上における地形の断面の様子を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2017年 和歌山県公立入試 類似）

1. A点付近は平坦な土地が広がり、B点に近づくにつれて標高が高く斜面が急になる。
2. A点からB点まで、標高の変化がほとんど見られない一定の高さの台地が続く。
3. A点付近は標高が高く斜面が急で、B点に近づくにつれて標高が下がり平坦になる。
4. A点からB点に向かって、中央部が大きく凹んだ盆地のような形状が続く。

問10　高知県で野菜の農業産出額が非常に高い主な理由と、その栽培方法の名称として正しい組み合わせはどれですか。（2021年 埼玉県公立入試 類似）

1. 広大な平野を活かして、大型機械を導入し米と麦を交互に育てる「二毛作」が盛んだから。
2. 標高の高い地域の冷涼な気候を利用して、野菜の出荷時期を通常より遅らせる「抑制栽培」が盛んだから。
3. 温暖な気候を利用して、ビニールハウスなどで野菜の出荷時期を通常より早める「促成栽培」が盛んだから。
4. 大都市への近さを活かして、収穫から消費までの時間を短縮し鮮度を保つ「近郊農業」が盛んだから。

問11　本州四国連絡橋の3つのルートのうち、広島県尾道市と愛媛県今治市を結び、サイクリングロードとしても人気が高い「しまなみ海道」が含まれるルートの名称として正しいものを選択してください。（2024年 和歌山県公立入試 類似）

1. 神戸・鳴門ルート
2. 明石海峡ルート
3. 尾道・今治ルート
4. 児島・坂出ルート

問12　1985年から2015年にかけての四国地方と他地域間の移動手段を調査した統計において、1985年には全体の一定割合を占めていた船舶の利用が減少し、代わって自動車が全体の約3分の2を占めるほどに急増しました。このような交通手段の変化をもたらした主な要因として正しいものはどれですか。（2020年 香川県公立入試 類似）

1. 格安航空路線の拡大により、人々の移動手段の大部分が航空機へ転換されたこと
2. 本州と四国を結ぶ3つのルートの本州四国連絡橋が完成し、陸上交通網が整備されたこと。
3. 瀬戸内海での船舶事故を防ぐために、旅客船の航行が全面的に禁止されたこと。
4. 鉄道網の高速化が進み、自家用車よりも鉄道による移動が一般的になったこと。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 原料の輸入や製品の搬出に便利な海上交通の利便性を活かすため	瀬戸内工業地域は、波が穏やかな瀬戸内海に面しており、大型船が接岸しやすい臨海部に工場が立地しています。海外から輸入する鉄鉱石や原油などの重い原料を大量に運び込み、また製品を積み出すのに適した海上交通の利便性を最大限に活用したことで、石油化学コンビナートなどの重化学工業が発展しました。
問2	答え 1 香川用水	讃岐平野は降水量が少なく、大きな河川も乏しいため、古くからため池による水資源の確保が行われてきました。しかし、ため池だけでは大規模な干ばつを防ぎきれなかったことから、四国山地を越えて降水量の多い吉野川（徳島県）から水を引く「香川用水」が建設されました。これにより、農業用水だけでなく生活用水や工業用水の安定供給が可能となりました。
問3	答え 4 鳥取県	中国地方は中国山地を境にして、日本海側の「山陰」と瀬戸内海側の「山陽」に分けられます。広島県や兵庫県、四国地方の香川県は瀬戸内海に面していますが、鳥取県は島根県とともに山陰地方に位置し、北側は日本海に面しています。この地理的条件により、冬には北西からの季節風の影響を受けやすいという特徴があります。
問4	答え 3 年間の通行台数が約427万台増加して1300万台を超え、徳島県と兵庫県の間を結ぶ乗合バスの旅客輸送人員も増加傾向にある。	1998年の明石海峡大橋の開通により、神戸・淡路・鳴門ルートは本州と四国を結ぶ主要な交通路となりました。統計データによると、2000年から2016年の間にこのルートの年間通行台数は大幅に増加し、利便性が高まったことで高速バス（乗合バス）による旅客輸送も活発になっています。この変化により、かつて輸送の主役であったフェリーの利用が減少するなど、四国地方の交通体系に大きな影響を与えました。
問5	答え 4 北側の中国山地と南側の四国山地が、湿った季節風を遮る壁のような役割を果たしているため	瀬戸内地域は北を中国山地、南を四国山地という険しい山地に挟まれています。夏は太平洋側から吹く湿った季節風が四国山地によって、冬は日本海側から吹く湿った季節風が中国山地によってそれぞれ遮られます。湿った空気は山を越える際に雨や雪を降らせるため、それらの山を越えて瀬戸内側に吹き込む風は乾燥した状態になり、結果として年間降水量が少なくなります。
問6	答え 4 愛媛県	瀬戸内海に面した愛媛県は、年間を通じて温暖で晴天の日が多い気候特性を持っています。この気候を活かした果樹栽培、特にみかんをはじめとする柑橘類の生産が非常に盛んであり、統計データにおいても野菜産出額や工業出荷額と比較して、果実産出額が際立って高いという特徴があります。青森県はリンゴ、宮崎県はピーマンなどの促成栽培、和歌山県も柑橘類で有名ですが、資料の数値や瀬戸内の気候条件の説明から愛媛県を特定できます。
問7	答え 1 製造品出荷額などの工業規模は比較的小さく、農業産出額において果実生産の割合が高い。	鳥取県は製造品出荷額に表される工業規模が比較的小さい一方、梨をはじめとした果実などの栽培が盛んであり、農業産出額において果実生産の割合が高いという特徴があります。
問8	答え 3 他の産地の出荷が少なく市場価格が高騰する時期を狙い、高い利益を得るため	野菜の市場価格は、需要と供給のバランスによって決まります。なすの出荷量が全国的に減少する冬から春の時期は、供給が不足するため1キログラムあたりの平均価格が上昇します。高知県はこの時期に合わせた出荷を行うことで、高い販売価格を維持し、農業の収益性を高める戦略をとっています。これは温暖な気候とビニールハウスなどの施設を組み合わせた生産体制によって実現されています。
問9	答え 3 A点付近は標高が高く斜面が急で、B点に近づくにつれて標高が下がり平坦になる。	地形図において等高線の間隔が密である部分は傾斜が急であることを示し、間隔が広い、あるいは等高線がほとんどない部分は平坦な土地であることを示します。標高約332mの山地であるA点から港のあるB点へ向かう場合、断面図では始点が高く、終点に向かって急激に下がり、その後、海に近い平坦な線が描かれることになります。
問10	答え 3 温暖な気候を利用して、ビニールハウスなどで野菜の出荷時期を通常より早める「促成栽培」が盛んだから。	高知県は、南部の高知平野を中心に、黒潮がもたらす温暖な気候を最大限に利用しています。冬でも暖かい気候を活かし、ビニールハウスなどでピーマンやなす、きゅうりなどの夏野菜を冬から春にかけて栽培し、他の地域より早い時期に出荷する「促成栽培」が行われています。この方法は、野菜の価格が高い時期に市場へ供給できるため、農業産出額を押し上げる大きな要因となっています。一方で「抑制栽培」は長野県や群馬県などの高冷地で見られる手法であり、高知県の特色とは異なります。
問11	答え 3 尾道・今治ルート	広島県と愛媛県を結ぶ「尾道・今治ルート」は、瀬戸内海の島々を橋でつないでおり、「しまなみ海道」の愛称で親しまれています。このルートは、本州四国連絡橋の中で唯一、歩行者や自転車が通行できる専用道路が並走しているのが特徴です。一方、岡山県と香川県を結ぶのは児島・坂出ルート、兵庫県と徳島県を結ぶのは神戸・鳴門ルートです。
問12	答え 2 本州と四国を結ぶ3つのルートの本州四国連絡橋が完成し、陸上交通網が整備されたこと。	神戸・鳴門ルート、児島・坂出ルート、尾道・今治ルートという3つの本州四国連絡橋が整備されたことで、それまで船舶が中心だった四国と本州の間の交通が、自動車（自家用車、トラック、高速バス）へと大きく転換されました。これにより、天候に左右されにくい安定した輸送と、時間の短縮が可能になりました。